

培友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

難波縫子様には、去る昭和43年12月18日満90歳の天寿を全うせられお言葉を残されて安らかにご永眠。生きて甲斐ありあそばされた。

の名誉教授として教育界をご指導になつておられる。

ご二女春枝様は、住友原子力工業株式会社副社長高洲紀雄氏のご令閨であり、ご三女環様は、故洛

ご厚情とご指導を賜わっておつせ
由である。

ご葬儀には、京都大学電気工学
関係各教室の名誉教授、元教授、
並びに現職教官の奥様方のつどい
である喜楽会を代表して鳥養、岡
本兩先生の奥様を始めとして、多
数の方々のご列席を得た。

〔後記〕
以上の二文は、故 石川芳次郎先生が御健在の砌り先生の御指揮に従つて、書きあげたものであるが石川先生には別紙記載のように去る一月十八日御急逝あそばされた。このつたない文章を御らんに入れるとのできぬもの悲しやがら人の世の味気な

故 難波正先生のご略歴と

昭和大名授業

林重害

(一)故難波先生のご略歴

難波正先生は安政6年4月12日岡山にご誕生、長ぜられるや藩の命により帝国大学の前身である

東京大學にご入学 明治11年
学をご卒業、フランスのソルボ
ヌ大学にご留学、明治31年、京

や京都帝国大学理工科大学教授ご任官、電気工学第1講座をご任、電気工学第2講座を共に担当して、京都帝国大学における電気工学教室の地歩を不抜のにしていただいたのである。

大正年代に入るや難波正先生
50数歳のお若さにて日本帝国の
高の榮誉であった勲一等の褒章
お受けになつたことは、當時と

明治31年、京都帝国大学に、わ
れらが母教室電気工学科を創建
くだされた故、難波正先生の奥様

故難波正先生の御
令室天寿を全うせ
られ御永眠

ではありえない、あまりにも有名な談であったということである。大正9年難波正先生は病魔におかれるところとなられ、危篤の状態に陥いられた。

大学を定年ご退官後は同大学の名誉教授となられたが、先年物故せられた。

私は、先生ご存命中、福岡に出張、お目にかかり種々ご指導を賜わったことを思い、おなつかしく有難く存じあげている。

ご葬儀は昭和4年1月21日御夫君難波正先生ご永眠の南禅寺の名刹天授庵においてご二男難波昭二先生が喪主となられ、ご親族ご一同の手によってしめやかに且つ壮儀裏に執り行なわれた。

十四日会 四国路ゆく

十四日会（大正十四、十五年同
級会）は最も行動的であることは

則としているので、本年も夫婦を加十五組单独参加十名それに同三

自他共に認めるところであるが、
本年（昭和四三年）も三泊四日の
四国大会を開いた。四国には会員

の医師（前徳島大学教授）写真集
門家、世話役を加えて四十数名の大部隊である。

林経営に活動して居られるので、今回の企画及び実施は全部全君の勧進によるもの、洵に有難い次第である。十年近くも夫人同伴を頃

）正午、高松市、国際ホテル集会
佐々木君寄贈にかかる無いのネク
タイ、ブローチ、帯止に勢無い
全ホテル会長の渡部兼雄先輩（土

正十二年卒) ご夫妻も特にご出席下さっての昼食会で、今大会のスタートを切った。

高松へ来たら先ず屋島に登ってそれから栗林公園を見るのが自然のコースである。屋島では女性会員は名物の籠に分乗して山上を一周、バスガイド語るところの屋島合戦談に七百何年の昔を偲び、桃太郎童話のお婆さんの洗濯中桃を拾った川、お爺さんが柴刈りに行つた山などをバスガイドの説明で觀とれているうちに、車は五色台へと登る。五色台は瀬戸内海を眺めるには最も地の利を得てゐるところ、この日、空はよく晴れて高く、海は静かで青く、塩飽諸島が巧みに配置された、小堀遠州作の造園の粋に感嘆する。

ホテルに帰つて恒例の総会になると、洋食の宴会はシャンパンの乾杯が始まり、男性は言はずも女性もピンクレディなどのカクテルに微醺を帯びて、談論風発、遂に珍談奇談なども飛び出して、十

正十二年卒) ご夫妻も特にご出席下さっての昼食会で、今大会のスタートを切った。

四日会ならではの賑かさである。
第二日(十月十一日)は夜来の雨も晴れ快晴、一同その精進のよさを誇りつつバスに乗り込み桃太郎童話のお婆さんの洗濯中桃

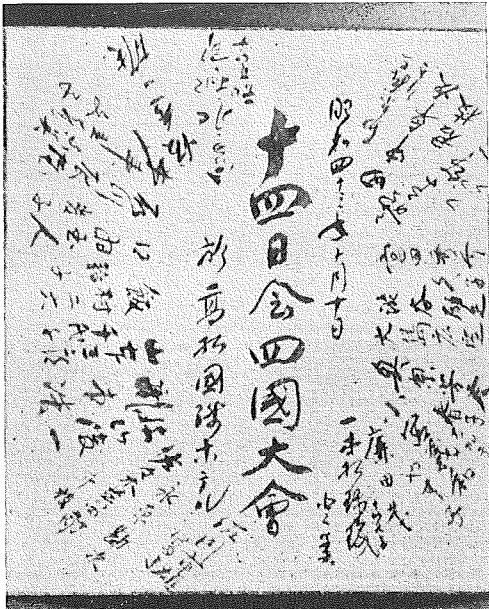
の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

車は高知県に入る、土佐の森林美を見つ大杉(天然記念物)の見える辺りで佐々木君より山下将軍の出身地であるとの紹介あり

今君と山下大将との因縁話などを挙聴しつつ、佐々木君比島戦争に於て九十九死に一生を得たる歎びを頗り合つ。石灰石採取の山など

大小様々の島々は眼下に展開して遠く鷲羽山水島地帯や中国の山々も展望せられ、大槌小槌の名島は濃緑色の笠を海上に浮べたよう、思わず絶景々々の声が出る。

車は坂出市を通り、丸亀城の名石垣を左に見つ、国道三二号線



に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

車は高知県に入る、土佐の森林美を見つ大杉(天然記念物)の見える辺りで佐々木君より山下将軍の出身地であるとの紹介あり

今君と山下大将との因縁話などを挙聴しつつ、佐々木君比島戦争に於て九十九死に一生を得たる歎びを頗り合つ。石灰石採取の山など

大小様々の島々は眼下に展開して遠く鷲羽山水島地帯や中国の山々も展望せられ、大槌小槌の名島は濃緑色の笠を海上に浮べたよう、思わず絶景々々の声が出る。

車は坂出市を通り、丸亀城の名石垣を左に見つ、国道三二号線

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

宿舎三翠園ホテルに到着、前四

国電力専務現高知電気ビル社長宮地冬樹君(昭和二年卒)の出迎えを受けた。庭には本会の為に天然記念物尾長鶴と土佐犬横綱高力号

が態々披露されている。

宴会は高知名度サハチ料理にみ

んな度胆を抜かれた。即ち眼の下

二尺もあるうかと思われる大鶴の

活け造りが大皿に盛られて飾り付

けられてあり、鶴のタタキを先頭

に海の幸続々と運び込まれ、待べ

る美妓みんな酒豪なるに釣られて

一同酩酊甚しく、文化財太刀踊の

郷土芸術を観た頃は座もざわめい

て会員のかくし芸相続して賑かな

こと、中でも夫人連の合唱などは

特に圧巻であった。

第三日(十月十二日)も晴れ晴

れと夜が明けた。観光は桂ヶ浜と

高知市内から始まつた訳であるが

宮地君が特にガイド役を買って出

られた。そして車中は上品中品下品

の歓談尽きることなく、十四日会

に入り、普通寺を経て金刀比羅宮象頭を右に遠望遙拝しつつ次第に丘陵地帯に入る。このあたり筍の名産地とて竹藪多く、緑濃い杉檜松などの常緑樹と、やや紅葉した落葉樹とが対照して、山林美またなく佳く、かくて山は次第に深く会員一同都塵を払い山峠の清気を満喫して、車中の歓談尽きず、いつの間にか車は徳島県に入り、四国三郎の異名ある吉野川に出る。大歩危小歩危の難所も今は舗装国道の完成で何の危険もなく、この辺り、山高く川深く断崖絶壁の下、群青色の激流は岩を食んで白い渦を巻いている。昼食は大歩危ドライブインで、大歩危の偉容を俯瞰しつつ川魚山菜料理に舌鼓を打つた。

ムード高調のうちに三坂峠に着く。瀬戸内海は遙か彼方に遠望され、連からて我々は瀬戸内海（高松）から太平洋（高知）へ、太平洋から再び瀬戸内海（松山）へ帰つて来たことになる。

三坂峠でサンドウイッチの昼食を摂り小憩、車はこれから一路山を降り、砥部焼の砥部町を経て松山に入る。途中蜜柑王国伊予にふさわしく満山見渡す限り蜜柑畑が続く。

松山市では先ず正宗寺を訪れて子規堂を観る、子規居士の埋骨塔鳴雪遺髪塔、虚子筆塚など文人輩の後、松山城に登つて市内眺望して石手寺に詣で、宿舎ニューまきの最後の旅装を解く。

今夜はもうお別れの宴である。文化財伊予万才の可憐な踊に魅せられつつ、道後美妓の轢し出す雰囲気に会員は最後の夜とて破目をはづして痛飲爆笑が続く。

第四日（十月十三日）最後のコース国道一号線を高松に向う。

昨日までの山岳地帯とは様相が全く変つて、平坦なる平地を走り続ける。りんりんパークで小憩して錦鯉観賞、眼の下三尺と言う色様の大鯉が悠々と泳いでいる。

西条島川江を経て香川県に入り豊浜レストハウスにて昼食、蝦

フライは瀬戸内海で獲れる活蝦を特に集めての特別料理と言う、連日ご馳走攻めにて食傷気味の胃袋も活気を取り戻して貰う。再び丸亀城を右に見つつ車は一路高松駆着、これにて高松、高知、松山、高松と所謂四国ルートを走破して、本大会の千秋楽となつた次第である。

今回の大会に於て人情風俗資源などつぶさに見学して太陽と緑の国四国が我が国土の重要な部分であることを認識し、十四日

に於ての十四日会の開催を決議した。今回の四国旅行はそのリハーサルとなる説である。盛んなる国に於ての十四日会の開催を決議した。今回も又愈々盛ん、会員の健康に就いても愈々自信を持ったので、何年後であろうとも会員は長生して本四国連絡架橋完成の暁は再び四

国に於ての十四日会の開催を決議した。今回も又愈々盛ん、会員の健康に就いても愈々自信を持ったので、何年後であろうとも会員は長生して本四国連絡架橋完成の暁は再び四

国に於ての十四日会の開催を決議した。今回も又愈々盛ん、会員の健康に就いても愈々自信を持ったので、何年後であろうとも会員は長生して本四国連絡架橋完成の暁は再び四

国に於ての十四日会の開催を決議した。今回も又愈々盛ん、会員の健康に就いても愈々自信を持ったので、何年後であろうとも会員は長生して本四国連絡架橋完成の暁は再び四

関 西 支 部 総 会

昭和43年12月8日、宇治静山荘において開催された。

この日は日曜日で、出席会員百四名、同伴家族大人19名、小人10名の盛況で、阪急バス3台に分乗

し、大阪組は午前9時梅田阪急に集合し、総会の前に見学会を催した。

第一班 喜撰山ダム見学（会員のみ）

第二班 天ヶ瀬ダムおよび発電所見学、家族は宇治平等院見学

関西電力（株）のご厚意で建設

中の揚水発電所を見学することができ、風光明媚な地域と雄大な新

技術に一同感嘆した。家族は天ヶ

崎状なる哉、十四日会。終に今大会は佐々木幹事のご推薦によって、阿波銀行、高松、高知、松山の各支店長殿以下行員各位に多大のご尽力を賜つたことを感謝いたします。（木津記）

感謝いたしました。（木津記）総会と旅行会を兼ねた楽しい一日を過ごした。（山本記）

出席者

懇親会の間に、大谷教授の司会の下に最長老人上林一雄氏のお話、松田長三郎名譽教授、電気講習所を代表し立石享三氏らのテーブルスピーチの後、親子二代の洛友会員中堀孝志、中堀一郎氏、ご夫婦およびお孫さんの批露があり、和氣あいあいのうちに懇談し、午後3時閉会となりバスに分乗し帰路に向つた。

阪口直史、白須賀督行

鈴木建一、高見俊治、別所功、松田条彦、

宮原武寿、大塚克昌、伊吹恒二、中堀一郎、原武久、

中村韶、平嶋正芳、

江森登喜大、西台惇、

小山和男、山口益生、

池田成二、森田重義、

井上和夫、野田権祐、

林徹、小森幹男、

米原幹夫、

柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

近藤文治、

昭22 大貫良三、山本重俊

昭25 宇野敏一、森島省三

昭26 柴田宏

昭28 小森幹男

昭29 井上和夫、野田権祐、

昭30 林徹、

昭31 池田成二、森田重義

昭32 山口益生

昭33 江森登喜大、西台惇

昭34 小山和男

昭35 両部達夫

昭36 操田浩

昭37 中村韶、平嶋正芳

昭38 宮原武寿、洪谷義一

昭39 廣田邦雄、洪谷義一

昭40 伊吹恒二、中堀一郎、原武久

昭41 大塚克昌、

昭42 阪口直史、白須賀督行

昭43 鈴木建一、高見俊治、別所功、松田条彦、

昭44 宮原武寿、

昭45 大塚克昌、伊吹恒二、中堀一郎、原武久、

昭46 中村韶、平嶋正芳、

昭47 江森登喜大、西台惇、

昭48 小山和男、山口益生、

昭49 池田成二、森田重義、

昭50 井上和夫、野田権祐、

昭51 林徹、

昭52 小森幹男、

昭53 米原幹夫、

昭54 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭55 近藤文治、

昭56 昭22 大貫良三、山本重俊

昭57 宇野敏一、森島省三

昭58 柴田宏

昭59 小森幹男

昭60 米原幹夫、

昭61 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭62 近藤文治、

昭63 小山和男、山口益生、

昭64 池田成二、森田重義、

昭65 井上和夫、野田権祐、

昭66 林徹、

昭67 小森幹男、

昭68 米原幹夫、

昭69 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭70 近藤文治、

昭71 昭22 大貫良三、山本重俊

昭72 宇野敏一、森島省三

昭73 柴田宏

昭74 小森幹男、

昭75 米原幹夫、

昭76 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭77 近藤文治、

昭78 昭22 大貫良三、山本重俊

昭79 宇野敏一、森島省三

昭80 柴田宏

昭81 小森幹男、

昭82 米原幹夫、

昭83 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭84 近藤文治、

昭85 昭22 大貫良三、山本重俊

昭86 宇野敏一、森島省三

昭87 柴田宏

昭88 小森幹男、

昭89 米原幹夫、

昭90 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭91 近藤文治、

昭92 昭22 大貫良三、山本重俊

昭93 宇野敏一、森島省三

昭94 柴田宏

昭95 小森幹男、

昭96 米原幹夫、

昭97 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭98 近藤文治、

昭99 昭22 大貫良三、山本重俊

昭100 宇野敏一、森島省三

昭101 柴田宏

昭102 小森幹男、

昭103 米原幹夫、

昭104 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭105 近藤文治、

昭106 昭22 大貫良三、山本重俊

昭107 宇野敏一、森島省三

昭108 柴田宏

昭109 小森幹男、

昭110 米原幹夫、

昭111 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭112 近藤文治、

昭113 昭22 大貫良三、山本重俊

昭114 宇野敏一、森島省三

昭115 柴田宏

昭116 小森幹男、

昭117 米原幹夫、

昭118 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭119 近藤文治、

昭120 昭22 大貫良三、山本重俊

昭121 宇野敏一、森島省三

昭122 柴田宏

昭123 小森幹男、

昭124 米原幹夫、

昭125 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭126 近藤文治、

昭127 昭22 大貫良三、山本重俊

昭128 宇野敏一、森島省三

昭129 柴田宏

昭130 小森幹男、

昭131 米原幹夫、

昭132 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭133 近藤文治、

昭134 昭22 大貫良三、山本重俊

昭135 宇野敏一、森島省三

昭136 柴田宏

昭137 小森幹男、

昭138 米原幹夫、

昭139 柴田宏、猪口敏夫、卯本重郎、

昭140 近藤文治、

昭141 昭22 大貫良三、山本重俊

昭142 宇野敏一、森島省三
柴田宏
近藤文治

九州支部総会

本部および教室から鳥養会長、林重憲教授、山本幹事、上之園教授をお迎えし昭和43年12月6日に福岡市内で支部総会を開催した。

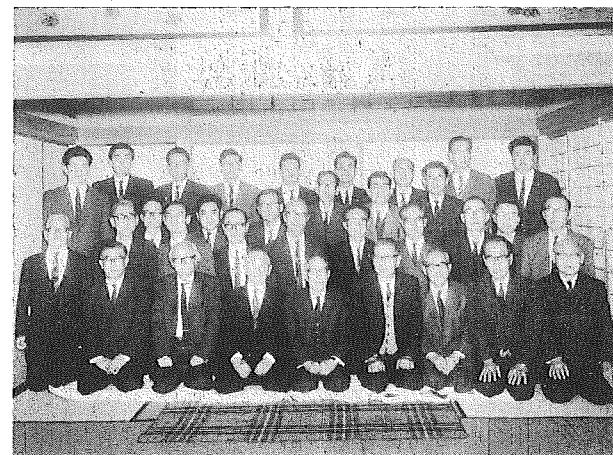
別府、北九州からの参加者数名

を含めて約30名の会員が参考集した
鳥養会長からいつもながらの有益なお話、山本幹事から耳の痛い
会費のお話、ついで上之園教授から学生問題を含めた教室の近況などを聞かせていただいた。

幹事の手違いから出すのが遅れたふぐちりをつつくころは各会員

の口もほぐれ、自己紹介、隠し芸の披露と、夜のふけるのも忘れ楽しい一夕を過ごした。(井上記)

出席者



昭 11	大元 高柳与四郎
昭 8	鳥養利三郎 宮田秀介
昭 6	大15 林重憲 河本勝寿 山本茂雄
昭 5	大4 岡次雄
昭 4	大2 上之園教授
昭 14	大15 小菅佐七郎 井上大助
昭 15	大橋章男 西助九郎
昭 16	大22 上之園親佐 永山盛敏 杉村英雄 増岡健一 大塚成吉 久場義隆 近藤 章 大倉富士雄 平川四郎 上田保之 高野 晃 梶井信一 石原賢司 岡 範彦

昭 36	池田一光
昭 38	真栄城朝
昭 41	大内一紀
講大 7	西村訓彦 波種吉
講大 13	浜田庫喜

昭和4・5年 合同クラス会

昭和四年卒業生と昭和五年卒業生とは、従来単独でクラス会を開いていたが、昨年十月の能登路の会合につづいて、本年も合同クラス会を開くことになり、場所として皿鉢料理の高知が選ばれた。

諸般の準備なって、十月十日夕方高知の旅館に集合、会するもの

総員21名で先づ懇親会を開く。

当夜はゲストとして、洛友会四国支部長宮地冬樹先輩をお招きしたところ、心よくご承諾をいただき会合に花をそえて下さったことを感謝いたします。

懇親会は小人数ながらも、終始愉快に又なごやかな中に二二時頃お開きとし、その後は宮地先輩の貴重な収集になる「土佐の絵金」のスライドを鑑賞させていただきました。その為か当夜は行方不明者皆無でした。

その翌一日と翌二日はバスで龍洞洞、室戸岬、桂浜および遊船で大歩危と小歩危の間を下りました。大歩危と小歩危の景観は

近くダムの建設で水没する予定とかまことに惜しいものです。

一二二日一五時頃解散予定地の高松駅前に到着し、小

憩の後名残りをおしみつ、又来年を楽しみに解散しました。

中には小豆島の観光に足を延ばした方もおられるとのことで

しまつ、又来年を楽しみに解散しました。

豆島の観光に足を延ばした方もおられるとのことで

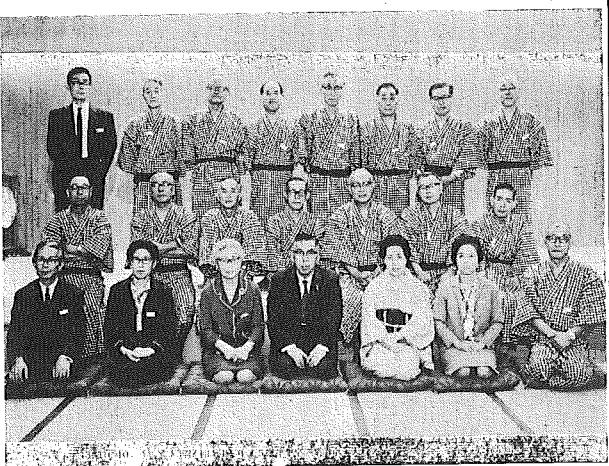
しまつ、又来年を楽しみに解散しました。

豆島の観光に足を延ばした方もおられるとのことで

しまつ、又来年を楽しみに解散しました。

豆島の観光に足を延ばした方もおられるとのことで

しまつ、又来年を楽しみに解散しました。



洛友昭八会

昭和8年卒業生の35周年記念会
前でのもので、参加者全員です。
(S・M記)

級友の会する者23名。

出席者は次のとおり

岡村善勝、大塚重遠、奥敏夫
小野恒造、蒲生朝郷、川端太郎
久保久雄、田井梁之、田中信高
高尾磐夫、中尾好一、西谷平一郎
西村完三、西山安三、

林 正夫、丸 保一、山下正雄
山本 茂、萩沢英作、森島五郎

石井文雄、宮本政幸、塙見武夫

在洛電講有志忘年会

師走も半ば過ぎの十七日夕、恩師林重憲先生、上西亮二先生を始め教室から近藤文治先生、洛友会事務局の山本茂雄先生をお招きして昭十三年及昭十一年卒が中心となつて大正年代卒の先輩を交えて在洛有志が岡崎の白河院で忘年会

を開いた。市川亀久称君がこの程我が国の創造性工学を紹介のため渡米した報告があり、久しう振りに白髪交りの青年に若返って歓談の機会を得た。上西先生から麦酒と北野先輩から美人ホステスのサービスの御提供を受け大いにはずむ

大四	村井貞三、大五	立石亨三
大八	近藤勇次郎	
大一	白坂勇城	高野市太郎
大二	八木徳三	
大四	森芳郎	山崎惣三郎
昭四	北野山人	昭九 星野一夫
昭一一	岩本国三	加藤金勝

こととなつた。記して謝意を表します。

当日の出席者

林重憲先生 近藤文治先生 山本茂雄先生

上西亮二先生 山本茂雄先生

昭一二	佐藤一二	山口敬一
昭一三	市川亀久弥	市川盛治
昭一二	木村広美	
昭一三	沖徹次郎	竹村清 豊原富弘
昭一二	本村廣美	
昭一四	宮田整三	小山正三
昭一五	上野満	大沼丈夫
昭一六	福田卓平	藤村俊一 松尾利康
昭一七	佐藤一二	山口敬一
昭一八	沖徹次郎	竹村清 豊原富弘
昭一九	佐藤次雄	
昭二〇	神戸俊夫	

松本義允 山田国雄

卒業30周年を迎える

去る十月十日から三日間つきの

ような記念行事を開催、全国各地から20数名参集し盛会であった。

まづ十月十日午後京都ゴルフ場

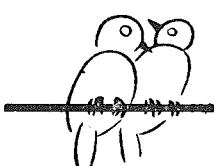
で一部会員がゴルフを楽しんだのち、午後六時から京都東山高吉寺の料亭「土井」で記念のクラス会を開いた。

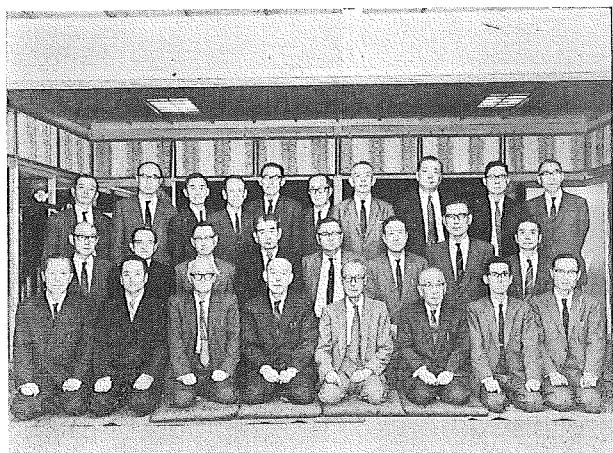
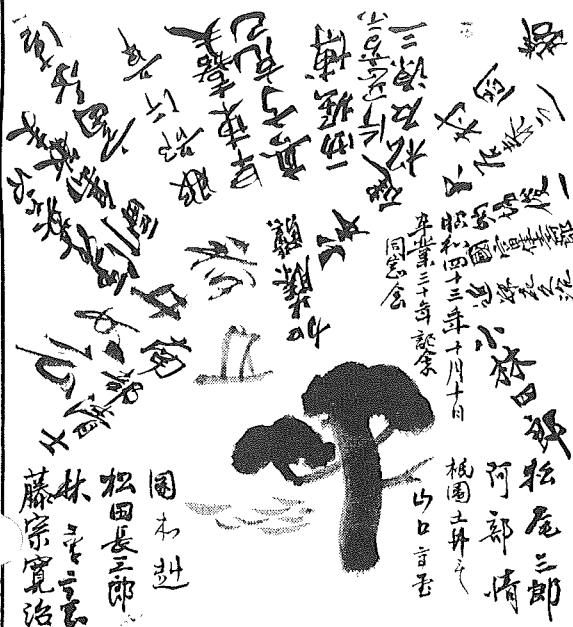
ご多忙中にも拘らず岡本先生、松田先生、阿部先生、林重憲先生のご出席を頂き、恩師を囲んで22名の会員が30年間の懐旧談に時を忘れ、名残りは尽きなかつたが、漸く午後九時半宴を閉じた。

翌十一日からの懇親旅行は真弓山本健吾君の世話を北陸黒部方面の一泊旅行を行つた。まづ十一日夕刻奈月温泉延対寺荘旅館に集合(京都—富山間の特急車中では全区間、食堂車で懇談するもの多く)さらに第一夜も盛大な宴会を夫人を交えて開いた。翌十二日は現地では珍らしい位の好天に恵ま

れ、宇奈月から黒部峡谷の絶景を探、勝黒部第四発電所を見学、黒四ダムを経て大町を出て午後四時頃誠に楽しい30年振りの修学旅行を終えた。参加者は伊藤、大谷、小林、副島、南部、西堀、早東、平野進、的場、真弓、水野、皆川山本健の諸兄と伊藤、副島、大谷三天人を加えて、計十六名であつた。

それから今回も20、25周年年に引き続いて三回目の家族写真の交換の準備を進めている。(大谷記)





石川芳次郎氏 御逝去遊ばさる

洛友會顧問の大先輩石川芳次郎氏は、去る一月二十七日、心筋こうそくのため八十七歳で急逝されました。同氏は明治四十三年京大工学部電気工学科を御卒業になられ、京都電灯に御入社になられ、爾來京都並びに関西の電氣産業の胎動期から電気一筋に打ち込み、一方数多くの公職を歴任され、産業界、技術界、文化國際親善に尽された広く且偉大な御功績に対し昭和四十年京都市名誉市民になりました。葬儀は二月二日同志社栄光館で京都市公葬として音楽葬形式でおこそかに營まれました。石川さんは、洛友會の大恩人で電気工学科教室の懇話会にはよく御出席になり後輩を激励され二〇〇〇名を超ゆる同窓生中石川さんの御警咳に接しなかつた者は殆ど無かったのであると思われます。

葬儀には洛友會會長鳥養利三郎先生、副會長芦原義重氏がそれぞれ友人代表、関西財界代表の立場で弔辞を述べられました。

次の会報は、石川大先輩の追悼号として、故人と御関係の深かつた方々より御寄稿を頂き、故人の御遺徳を偲び度いと計画中ですが取り敢えず御逝去の御通知と共に深く哀悼の意を表する次第であります。

	石川芳次郎	小田嶋修三	堀鹿造	明43
講昭3	中島温	吉野錦三	大2	大3
講昭8	山本謙造	松浦守一	大4選	大9
講昭11	佐々木正至	吉野錦三	大10	大14
講昭14	宮本至	吉野錦三	大11	明45
43	43	42	43	43
8	1	7	8	44
18	29	15	14	43
29	15	14	21	43
15	14	21	28	44
3	3	1	2	1
18	18	3	13	1
29	29	28	13	27

以上の方々は有為の材を懷きながらご逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○

○林重憲先生より故難波正先生御夫人の御逝去を悼み、その機会に、電気工学教室創設の難波先生の御歴歴を御紹介下さいました。洛友會員の大多数は難波先生のことを御存知無いと思いますが、創設の歴史を知り、明治百年を回顧し、現在の大学紛争を思う時、隔世の感を抱きます。○洛友會の同窓会に最も活動的な十四日会の記事を、岐美先生より御投稿頂きました。後輩も続々とこれに見習い、会員の親睦を深め度いと存じます。

○次号は総会の予告と共に、故石川芳次郎大先輩の追悼号として御関係の深かつた方々よりの御寄稿を頂き度く、原稿〆切は三月十日と致します。

○昭和四十四年度の総会は五月二十五日名古屋に於て行われることとなり、詳細は次号にて御通じします。(山本記)

計

音

編集後記

事務局
京都市左京区吉田本町
京都市左京区田中大堰町四九

財團法人 應用科学研究所内

洛友會